

鈴木臨時議員提出資料

平成 1 5 年 4 月 2 1 日

環境科学技術分野の平成16年度の重点施策の考え方

背景

分野別推進戦略

(平成13年9月総合科学技術会議決定)

○重点分野別の推進戦略を策定

・環境分野

地球温暖化

ゴミゼロ型・資源循環型

自然共生型流域圏・都市再生

化学物質リスク総合管理 等

・ナノテクノロジー・材料分野

環境保全等への利用高度化

産業発掘戦略

(平成14年12月内閣官房公表)

○4分野に関する産業発掘の戦略を策定

・環境・エネルギー

・情報家電・ブロードバンド・IT

・健康・BT

・ナノテクノロジー・材料

平成16年度の科学技術分野の重点事項について

(平成15年3月科学技術政策担当大臣、総合科学技術会議有識者議員)

○重点化すべき事項として、具体的な対応例を提示

・地球温暖化対策や循環型社会の構築、自然と共生した生活環境の創出、化学物質リスク管理等

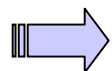
平成16年度の重点施策

1. 環境と経済の統合への取組

- ・環境技術実証モデル事業の実施
- ・ナノテクノロジーを活用した環境技術の開発
- ・競争的研究資金の拡充 等

2. 重点分野への取組

- ・地球温暖化対策
- ・ゴミゼロ・資源循環型社会の形成
- ・自然共生型流域圏・都市再生
- ・化学物質環境リスク評価・管理
- ・環境上の負の遺産解消



環境科学技術の発展を通じた 持続可能な社会 の構築へ

1. 環境と経済の統合への取組

以下の3つの施策等を通じ、環境の保全と経済の活性化との一体化を図る。

環境技術実証モデル事業 の実施

プロジェクトの概要

既に適用可能な段階にありながら普及が進んでいない先進的環境技術について、その環境保全効果等を第三者が客観的に実証する事業をモデル的に行う。

プロジェクトの効果

- 環境技術の普及が促進され、環境保全と地域の経済活性化が図られる。
- 特に、知名度に乏しいベンチャー企業、中小企業等の技術の普及において効果が大きいと考えられる。

ナノテクノロジーを活用した 環境技術の開発

環境モニタリング（ナノ・IT）

携帯電話型環境モニタリング機器とデータの収集・処理・配信システムの開発

健康・生態系影響評価(ナノ・バイオ)

有害物質の健康・生態影響評価に適したDNA、細胞等を載せた環境チップの開発

環境汚染防止対策（ナノ）

微量でも有害な化学物質を分子レベルで選択的に除去・回収できる技術の開発

競争的研究資金の拡充

地球環境研究総合推進費

地球環境政策への科学的な貢献・反映

廃棄物処理等科学研究費補助金

循環型社会形成・廃棄物の適正処理の推進

環境技術開発等推進費

公害対策・自然環境保全分野等への研究・開発支援

2. 重点分野への取組

以下の環境分野について、重点的に、研究・技術開発の促進に取り組む。

地球温暖化対策	ゴミゼロ型・資源循環型社会の形成	自然共生型流域圏・都市再生	化学物質環境リスク評価・管理	環境上の負の遺産解消
課題	課題	課題	課題	課題
人間や生態系に危険を起こさないようにするには、どのような手を打たなければならないのか？	循環型社会の形成に向けて何をすべきか？	健全な生態系、生き物のにぎわいを維持するにはどうすればよいか？ きれいな空気・水に囲まれた自然共生型社会をどう構築するか？	人間や生態系にとって許容し得ない影響を及ぼさないためには、化学物質とどのようにつきあっていけばよいか？	環境上の負の遺産を解消するには、どのようなシステム・技術が必要か？
重点研究テーマ(例)	重点研究テーマ(例)	重点研究テーマ(例)	重点研究テーマ(例)	重点研究テーマ(例)
温室効果ガス観測・排出削減・吸収源保全強化技術の開発	循環型設計・生産技術及び廃棄物・リサイクル・適正処理技術の開発	生物多様性に関する情報基盤の整備	体系的な環境リスク評価の推進	保管されたままの有害化学物質等の把握及び処理システムの確立